

2003年 CCIE Security 1回目

< 7月9日(水) >

今日は出発日である。21:10 成田発である。前日が福岡出張だったため、朝一番の便で会社に戻った。なお、スーツケースは既に JAL が自宅(東京)まで引き取りにきてくれているので、手荷物だけを成田に持って行くようにしている。会社(赤坂見附)には 10:00 に到着。

会社を 17:00 くらいに出れば間に合うので、それまでは最後のあがきとして、検証ルームで機材を触ることにしている。

ここで今回の出張について説明する。ネットワーク機器メーカーのシスコシステムズの最上位資格である CCIE のラボ試験のための出張である。なお CCIE は現在 4 種類あるのだが私は Routing&Switching は既に取得している。そこで新たな挑戦として Security に関する CCIE 資格を目指している。ふたつ以上の CCIE 資格を所有することを、俗に「ダブルホルダー」「トリプルホルダー」と呼ぶが、2年半前はダブルホルダーが世界で3人で、トリプルは1人だったはずである。現在ではその数も増えているようであるが、それでも何十人もいるものではないと推測される。

CCIE 試験は学科とラボ(実技)に分かれるが、学科に合格したものがラボへと駒を進めることができる。私は約一年前に学科に合格した後、満を持してラボに臨むわけであるが、実はあまり勉強できていない。ラボを受験すると決まってから約2ヶ月の余裕があったが、出張続きの私はあまり勉強に時間を割くことができず、全然自信が無いのである。

以前は2日間に渡りラボ試験が実施されていたのであるが、約一年半前に1日間での試験となった。だが、難しいことには変わりはない。

Security ラボは日本では受験できない。サンノゼ、ベルギー、もしくはシドニーで受験することになる。Routing&Switching を合格することができたシドニーが土地鑑もあるし時差がないので移動が楽なため、受験地に選んでいる。

会社の検証ルームで PIX ファイアウォールを触ろうと思った私は、予め予約しておいた機材を起動したのであるが、なぜか立ち上がらない。あれれ。。と思いながら、よくよくメッセージを見てみると

「このマシンはフェイルオーバー用のライセンスで起動されているため、アクティブ用マシンが無いと使用することができない」

とのこと。参った。会社での PIX 担当の方は出かけていて不在なのでもうどうしようもない状況だ。仕方なく、自分の机で、足元に置いてある Router で IPSec などの勉強をすることにした。

ちなみに私は Router を複数台、足元に置いて、いつでも実機で検証を行えるようにしている。自費で購入したものである。

そうこうしているうちに夕方になったので、早めに移動して成田のサクララウンジ（JALのラウンジ）で勉強することにする。赤坂地区のホテルから出ているリムジンバスで成田に直行である。スーツケースの中にも技術書などが満載であるが、会社からもありとあらゆる書物を持っていくことにする。重い。。

バス車内で勉強しながら移動したが、約80分で成田到着。ここでJALに運んでもらったスーツケースをいったんピックアップし、勉強するものだけ機内用のバッグに入れ替えて、全てスーツケースに入れ直した。

私はJALのグローバルクラブ会員なので「Seasons」と書いている、ファーストクラス専用カウンターでチェックインできる。専用カウンターを探していると、係りのおねえさんが

「あちらでチェックインしております」

などというので、そちらに行ってみるとエコノミー用のカウンターである。汚い格好をしているので、確認もされずにエコノミーと思われたようであるが、グローバル会員であると同時に、今回の出張は自費でビジネスクラスにアップグレードしている。そこにいたおねえさんに

「専用カウンターはどちらですか？」

と聞いてみたが

「は？」

などと反応された。そう言った時点で気づけ！ と思いながら

「すみません。私はグローバルなので。。」

というと、丁重に専用カウンターに案内された。汚い格好をしていると、こういう時は損である。おねえさんの態度が極端に変わるの嫌なことだ。

チェックインするが、シドニーの天候が悪く霧のため着陸できない可能性があるとのこと。その場合はブリスベンかキャンベラになるらしい。天候なので仕方がない。了解するしかないだろう。

出発まで2時間くらいはあるので、グローバル専用ラウンジで勉強することにする。なお、ビジネスクラスラウンジではない。グローバル専用ラウンジというのがあってそちらの方がゴージャスなのである。この、成田のグローバル専用ラウンジは素晴らしい。とても広く実にゆったりとした空気が流れている。

最近、重い荷物を持つことが多く、肩やら腰やらに負担がかかっている。ラウンジ備え付けのマッサージチェアで「は～」と言いながらくつろいでいると、おや、もう一時間前である。残りの時間は勉強し

てすごした。

<機内にて>

約9時間でシドニー到着であるが、今回はビジネスクラスなので実に快適である。何の不満もない。シートは水平とは言わないまでも、寝るのに十分な角度まで倒れるし、食事の内容も素晴らしい。さすがJALである。ずっと勉強をして行きたいところであるが、無理をして体調を崩してもまずいので、そこそこにして、あとはできるだけ寝るようにした。

到着は現地時間（日本よりも一時間進む）で8時の予定である。7時前に目が覚めたところで早速キャビンアテンダントさんが飲み物を持ってきたが、その後なかなか朝食が出てこない。忙しいのかなぁなどと思っていたが、私は一番先頭の席に座っていたので回りの状況がわからない。残り25分になったところで、いくらなんでもおかしいだろ、と思ってキャビンアテンダントさんに声をかけたら、なんと

「飲み物を出したあと、忘れてました。今からでもお出しします。」

とのこと。残り25分で、間もなくシートベルトサインが出るところだ。そんな状況で慌てて朝食を食べたくはない。もちろん、丁寧に謝ってきたが冗談ではない。

「私はいつもJALを信頼して、指定で乗っている。今から食べろと言われても納得できない。もう食べなくて結構だ。しかし、私は今回のサービスには満足できない。私はビジネスクラス相当のサービスに対するお金を支払う必要がありますか？ 全額返せとは言わない。しかし、JALとして十分に考慮して返事が欲しい。今すぐと言わない。日本に帰ってからでいいので、私のクレームに対して納得できる返事が欲しい。何度も言うが、私はこのサービスに対してお金を払う気は無い。」

「帰りはビジネスクラスで予約をしているが、このサービス内容であれば乗りたいと思わない。エコノミーにダウングレードしたい。変更してくれ。」

と強く主張した。担当のキャビンアテンダントさんは、きっと後で社内で大変な事態になると思うが、私も引けない線がある。私は穏やかな人間と思われがちであるが、元々、レースをするほど強い性格の持ち主である。

<7月10日(木)>

朝から気分を害してしまったが、無事着陸。入国審査へと進む。普通は何事もないだろうが、私は「さとうのご飯」を持ち込んでいる。オーストラリアは食べ物の持込には大変厳しい国である。申告すれば問題の無いものでも黙って通過しようとしてバレてしまったら、罰金や最悪の場合は投獄されることもある。正直に申告することにした。

検疫検査ラインで

「えーっと、お米を持ち込みたいんですが。。。」

と言うと、検疫係官は

「フォーダイズ？」

とか聞いてくる。何？ フォーダイズって何だ？ 大豆か？ フォー大豆？
英語と日本語をごちゃまぜにして使っているのかな。まるで長嶋前巨人軍監督だ。

全く余談であるが、長嶋前監督が亜希子夫人との婚約時代にふたりで町を歩いている時に報道陣に見つかり

「今日はプライバシーだから。。。」

と言おうとして

「今日はデモクラシーだから。。。」

と言ったのは有名な話だ。話を元に戻そう。

米以外に ” 大豆 ” 持ち込みを疑われているのかな？
確かに大豆は持込禁止品だったような気がする。厳しいなあ。
でも、フォーって何だ？ 4粒？ 4キロ？ 4升？
4粒の大豆を持ち込もうとしているのを疑うなんてよくわからない。

「ダイズ、、ですか？」

「そうそう、フォーダイズなのかを聞いている。」

「ん？？？ 大豆ねえ。。。」

そう、懸命な読者の方であればもうお分かりであろう。オーストラリアやイングランドでは「デイ」を「ダイ」と発音する。トゥデイはトゥダイだ。下に前の出張記で書いたエピソードを繰り返しになるが記載しておく。

余談だが、かなり昔のことで、スナックでカラオケなどを歌っていたときに、他のグループの若者が「Maybe xxxxx」とか歌詞のある歌を歌っていたが、そのにいちゃんが「マイビー」と発音していた。多分、ローマ字読みした結果だろうが、
「お前はイギリス人か！」
と腹がよじれるほど笑った記憶がある。

結果的に「フォーデイズ。滞在は4日間か？」ということだ。大体、そのようなことは入国審査の時に聞かれることで、まさか検疫検査で聞かれると思わなかったので油断していた。皆さんも大豆をオーストラリアに持ち込む時には注意して欲しい。

なぜ米を持ち込むのかは、見知らぬ外国でレストランで食事を取ることを想像して欲しい。できれば皆さんもひとりでは行きたくないはずだ。試験に集中したいので、余計な心配を背負いたくないからそのようにしている。なお、卵や肉類は持ち込み禁止なので中止して欲しい。

無事検疫を通過し、タクシーでホテルに向かう。試験が行われるのはシスコオーストラリアのある町で chatswood というところだ。シドニーからはタクシーで 30 分程かかるところで、田舎町である。もう 3 度目であるが、とても気に入っている町だ。

当たり前であるが、オーストラリアは現在は冬である。とても寒い。タクシー乗り場まで凍えながら歩いて行った。

前回「victor street」と「victor avenue」を運転手が勘違いしてとんでもないところに連れていかれたので、「avenue ではない。street だ」としつこく注意して安心していたが、またもややられてしまった。今度は「victor」と「victoria」の勘違いだ。私はホテルをよく知っているので大丈夫だが、不案内なヤツだったらそのままそこで降りているところだぞ。

いつものホテルにチェックインし、スーツケースから膨大な勉強道具を取り出した。しかし飛行機の中で寝ていたとはいえ、やはり体調は万全ではない。しかも風邪をひいたようで頭も痛い。薬を飲んで少し寝ることにした。会社への到着の連絡をメールで済まし、おやすみなさい。昼過ぎに目が覚めたのでそれから深夜まで勉強した。CCIE 試験を受けるときはいつもであるが、前日にとても緊張する。緊張のあまり気分が悪くなるほどだ。勉強不足が露呈し、勉強すればするほど深みにはまっていき、時間がいくらあっても足りない状況だ。ただ、試験は8時間に渡り行われるので、体調の維持を考えて1時には寝ることにした。朝は6時から起床して直前に頭に詰め込みたい。実技試験なので頭に詰め込んでも仕方ないところではあるが、全然役に立たない事もないのでできるだけのことをするつもりだ。

夜、テレビを見ていたら、長崎の幼児誘拐殺人事件を報じていた。

「シュンタネモト、なんちゃらかんちゃら。。。」

と、ここオーストラリアでも話題になるほどの異常な事件らしい。本当に嫌な事件である。

< 7月11日(金)試験当日 >

朝、予定通りに起床し最後の悪あがきをして、それから試験地に向かう。もう3回目なので慣れたものである。受け付けを済ませると今回は合わせて2名の受験みたいだ。もうひとは Routing&Switching とのこと。彼いわく

「前回受けた時はナイトメアみたいだった。とても難しかった。」

とのこと。まあ、頑張ってくれたまえ。

と、そこにプロクター（試験官）が現れて困った顔をしている。2年前とは違うプロクターだ。

「君たちは遅刻だ。8時半の集合のはずだ。」

とのこと。9時半開始というメールを受け取っていた私はすかさずメールのプリントアウトを取り出そうとしたが

「いやいや、2回目のメールを出した時に時間を訂正した。受け取っていないのであればメールのアカウントが削除されている可能性がある。メールのアカウントをチェックするように。」

などと言ってきやがった。状態じゃないぞ。メールアカウントなど削除されているはずはない。そんなメールは受け取ってない。もうひとりの受験者も困っている。絶対に自分が正しい自信がある。プロクターが

「しょうがない。本来であれば遅れた時間は全てペナルティになり、取り戻すことはできない。他の受験者と時間を合わせないといけないからだ。しかし、幸運なことに今回の受験者は君たちだけだ。40分遅れで君たちは到着したが、10分だけペナルティを与える。試験時間を7時間50分に短縮する。それでOKか？」

と提案してきた。絶対に時間変更のメールは受け取っていないが押し問答になっても嫌だ。仕方無い。その条件を飲むことにした。

とにかく試験開始だ。約8時間の長丁場になる。その間はほとんど休むヒマは無い。英知を結集した8時間となる。

試験内容には触れることはできないのでご容赦願いたい。とても難しい内容だ。公開されている内容の中で説明すると、Router や Switch やファイアウォールを使って大規模なネットワークを構築していき、その際に必要な Security をそれらに施していく。IPSec 上で NAT したり、その逆もあったり、トンネリング上に Routing Protocol を流したり、とにかくハードな内容だ。

あっという間に昼食だ。前は昼食の際に話し掛けられるのを極端に嫌った私は終始うつむいていたが、今回は少し余裕があり、会話を楽しむことができた。もうひとりの受験者がほとんど食べないで残したのでプロクターが「気分が悪いのか？」と聞いたが

「問題が難しくて頭の中がいっぱいだ。とても昼食を食べる気がしない。」

とのことだ。プロクターは

「ははは。BGP,OSPF,それらの Redistribution など、頭が混乱しているんだな。日本から来た君は、IPsec や NAT など頭がいっぱいだろう。リラックスしなさい。」

だと抜かしやがった。ちなみに私はカルボナーラを頼んだが、全てたいらげた。前回、バーガー類を頼んで、無茶苦茶まずくて閉口した私は、同じ失敗をしないように気をつけたのである。

なお、食事の際はプロクターの監視下で食事をする。参考書を見たり、受験者同士が会話するのを防ぐためだ。

午後がスタート。終了ギリギリまでコマンドを打ち込んだ。しかし感触からいって合格できないことはわかっているので、問題を少しでも覚えて帰りたい。しかしエンジニアの本能として問題があれば解決しようとしてしまい、問題を覚える余裕がない。

残り10分。もうひとりの受験者は

「もうあきらめました」

と帰っていった。馬鹿タレ。せっかく高い受験料(約15万円)を払って受験しているのに途中で帰るとは何事だ。わからないなら覚えて帰る努力でもしろ!

そうこうしているうちにタイムアップ。あー、ダメだ。プロクターに挨拶しホテルに戻った。どう考えても合格するだけの点数は取れていない。しかし、次につなげなければならない。早速、覚えているうちに問題をまとめることにした。覚えていないようでも、書き出していくと結構覚えているものである。しかし出題の意図さえもわからなかったような設問は、やはり覚えられない。何の意味があるのかすら理解できない設問があるのだ。そうこうしているうちに、もう夜の12時を過ぎてしまった。もう寝ることにしよう。

<7月12日(土)>

朝の6時半にチェックアウトし、呼んでもらったタクシーで空港に向かう。ビジネスクラスは利用しないことにしているがグローバル会員ということで、やはり専用カウンターでチェックインする。

「ビジネスからエコノミーにダウングレードしているはずですが」

というと、

「兵頭様ですか。お話は伺っております。マネージャを呼びますので少々お待ちください。」

とのこと。現れた現地マネージャは既に事情を知っており、往路の便での不祥事を丁重に謝ってきた。

しかし私は

「特に結論を焦ってはいないし、ここで決着させようという気はない。とにかく私は受けていないサービスに対するお金を払わないということだ。日本に帰って落ち着いて話をしたい。」

と主張した。まあ、どうなるかわからないが、とにかく引きたくない一線はあるので頑張ろうと思う。出発まではシドニー空港のグローバルラウンジで過ごしたが、すでにここにも話が通っていて

「兵頭様ですか。ご迷惑をおかけしました。」

と謝ってきた。まあ、この辺はさすが JAL である。機内に乗り込もうとしたら、例のキャビンアテンダントが待ち構えたように挨拶してきた。おや、どのようなシフトか知らないが偶然だろうか。まさか私の帰りの便に合わせて勤務シフトを変更したのか。まあいいか。おまえの失礼のおかげで意地になった俺はエコノミークラスだぞ。

ところで、エコノミーという言葉からエコノミークラス症候群をすぐに連想するが、このエコノミークラス症候群で人生の辛酸をなめた人と言えばサッカーの高原だろう。何せ、このせいで彼はワールドカップに出場できなかったのだから。ちなみに、高原はさすがにエコノミーではなくビジネスクラスを利用したらしいのであるが、結局この病気(?)にかかったのである。

その時の新聞には

「高原、エコノミークラス症候群で入院。(但しビジネスクラス利用)」

と書かれていた。細かいことを新聞も書くものである。

話を元に戻そう。着席してからもそのキャビンアテンダントが謝ってきた。私は

「そんなに怒っているわけではないが、主張していることはそんなに常識を外れてはいないと思う。多分、私がクレームをつけたことであなたは社内で大変な立場に置かれていると思うが、それは大変申し訳ない。それが目的ではないので、そのことに関しては私からも謝りたい。但し、常識の範囲内で自分の言い分だけは通させてもらう。それだけのご容赦ください。受けてないサービスに、やはりお金は払えない。」

とだけ返事した。

あとは何事もなく成田に到着した。メールチェックすると不合格のメールが届いていた。やはり。。。

今回は明らかに勉強不足であり、会社にも申し訳ない気持ちでいっぱいだ。受験費用と渡航費用などを合計すると40万円程度の経費を使ったことになる。確かに CCIE 試験はめったなことでは合格者が出ないことで有名くらい超難関ではあるが、自分としては受ける以上は合格したいし、不合格の時の悔し

い気持ちを味わいたくない。Routing&Switching の CCIE ラボ試験では落ちでは悔し涙を何度も流し、合格して男泣きで涙を流した。

次回、いつ受験できるのかは業務との兼ね合いであるが、約3ヶ月はみっちり勉強したいので10月くらいを予定している。それまでは、多少厳しい毎日になるが次回は必勝体制で臨みたいと思う。